実りの秋が楽しみ！

桧木内小学校で全校田植え

6月7日、心地よい初夏の日差しがふりそそぐ中、桧木内小学校で全校田植えが行われ、児童46人が田植えを体験しました。

この全校田植えは、児童たちの食と農業への理解と関心を深めてもらおうと、西根北地域自然保全活動隊（浅利則夫代表）の協力のもと、毎年浅利さんの田んぼをお借りして開催されています。

田んぼに集まった児童たちは、まずは苗の植え方の説明から。田んぼアートのため「5色の苗は色によって植える場所が違うこと」「5本ほど手に取り、深く植えること」などの説明を聞いた後、裸足になって田んぼへ。慣れない田んぼに「ヌルヌルする！」「歩きづらい！」などの声が上がる中、児童たちは、苗を丁寧に植えていきました。ひと通り植え終わると、木の枠を転がして、苗を植える場所の目印を付ける児童たちも見られました。

初めて田植えに挑戦した1年の上野里和さんは「田んぼに足を入れると気持ちがよくて、楽しい田植えだった」、6年の橋本真陽路さんは「転ぶことが多かったけど楽しく植えることができてよかった。今年で最後だけど、とてもよい思い出になった」と話しました。

浅利さんは「昔と違い、今では子どもが田んぼに入ることがなくなってしまった。子どもたちが田植えを楽しそうに体験していてよかった」と笑顔で話しました。

田植えが行われた田んぼは、同活動隊が管理し、秋にはカメさんの形をした稲が出現、児童たちによって稲刈りが行われる予定です。

外での作業は楽しい！

児童たちは慣れてくると手際よく植えていました。

仙北市ボランティア連絡協議会

ワクチン接種会場でボランティア活動

新型コロナウイルスワクチンの接種が田沢湖・角館・西木地区の3会場で順調に進められており、現在は75歳以上の方に続き、65歳から74歳の方の接種も行われています。

各会場では、仙北市ボランティア連絡協議会（髙橋達会長）の会員が、接種に訪れた方の誘導や案内などボランティア活動を行っています。これは、髙橋会長がワクチン接種のため会場を訪れた際に何かお手伝いできることがあるのではとの思いから活動に至ったものです。

同協議会は、平成19年に田沢湖・角館・西木地区にあった各ボランティア団体が相互に連携が取れるようにと設立。現在は、およそ1000人が傾聴や手話、清掃など様々なボランティア活動を行っています。

取材に訪れたこの日も田沢湖健康増進センターでは、同協議会の会員が会場内で訪れた方がスムーズに接種できるように予診票確認や診察への誘導を行っていました。

ボランティアにあたる同協議会事務局の小松龍子さんは「ボランティア活動は、隣の人が困っていれば、普通に助けにいくという感覚で行っている。今回のボランティア活動も特別な思いからというわけではなく、普段と変わらずごく自然に行っている」と話しました。

今後は、接種会場の状況を見ながら活動の実施を検討していく予定です。

予診票の確認のため、接種に訪れた方を保健師に案内する小松さん（左）。

市長の まちづくり No.181 日記

『市議会のご答弁で』

仙北市長　門脇　光浩

6月の市議会一般質問で、小林幸悦議員から秋の市長選挙について質問をいただきました。私は「私の4期目はありません。3期12年で市長職を市民の皆さまにお返しします」とご答弁しました。さらに、「首長はマラソンランナーではなくて、駅伝競走の走者の一人です。私が全力で走った区間は、間もなく次の走者にタスキをつなぐところまで進みました。市民の皆さま、議会の皆さま、市役所の皆さま、ありがとうございました。特に3人の副市長には感謝しかありません」。

また、「市長就任直後から、様々な災害・事件・事故で、市民の皆さまに申し訳の立たない、悔しい、悲しい事案が続きました。リーマンショック・東日本大震災・新型コロナウイルス感染症など、希有のパラダイムシフトに遭遇し、現在もコロナ対策が続いています。しかし、取り組み途中の、例えばワクチン接種は10月で終了する目処が立ち、また、企業誘致は再起動が遠くない現状です。皆さまと長く活動をした国道105号大覚野峠の国直轄事業は決定し、要望が多かった角館内川橋改修事業への着手、旧角館庁舎の解体も始まりました。再生可能エネルギーの開発などで、民間の小水力発電所が間もなく竣工します。一方、スマート農業、湧治文化の世界遺産登録、SDGs、特区・スーパーシティなど、いくつものプロジェクトがありますが、コロナ後の社会は、これまでの価値観とは違う新しい時代になります。仙北市は、この市長選を機に人心の一新が最良と判断しました」と。

さらに、市長を辞めた後の自身の日常については、「私は税金で生かされてきました。これからは市民にそれをお返しする番です。今まで市長として提案してきた政策が地域づくりに有効だったか、まず一人の市民になって、自身の目で確かめたいと思います。そのうえで、例えば空き家や農地や森林に新しい役割を見つけ出したり、交通手段のない人の足になったり、子育てのサポートや遊び場をつくったり…、そんな公と民の間のサービスを探りながら、生活の現場にいたいと思います」と話しました。

残す任期は約4か月。トップギアで走ります。

みんなで取り組む エスディージーズ SDGs vol.11

地域の未来のために、私たちができることはなんだろう？

あたり前の暮らしをこの先もずっと続けるために、私たち一人ひとりが考え、行動に移すことが大切です。SDGsは、“誰一人取り残さない”社会を実現する世界共通目標です。

全部で17個あるSDGsの目標のうち、今号は「目標10」をご紹介します。

問 仙北市地方創生・総合戦略室　☎43-3315

17の目標から今回紹介するのは…

SDGs 目標10
人や国の不平等をなくそう

「不平等」や「差別」について考えてみましょう。世界的には、先進国と途上国における経済的な格差が注目されていますが、それだけではなく、男女の違い、年齢の違い、生活習慣の違い、健康な人と病気や障がいを抱えている人、今の時代では「コロナ差別」という言葉もあります。

大切なことは、お互いの違いを理解し、認め合う意識です。どちらかが優れているのではなく、相手の考え方や個性を認め、尊重することができれば、いじめやハラスメントはなくなります。

問題になっていること
- 人種、性別、貧富の差などの違いによる不平等
- 差別、いじめ

私たちにできること
- 違いを発見し、学び、理解する
- いじめや差別をしない、させない

相手を尊重して認め合う心を持ちましょう！